



DAMANHUR ぽぽろ
ダマヌール日本ニュースレター



POPOLO

《第54 春号》
発行 ダマヌール日本
発行日 2023年5月

精神的進化のためにグループの必要性を唱えたファルコ



ファルコによって提唱された道

ダマヌールは楽観主義と、人間がそれぞれの人生の主人公として生きつつ、共通の夢をもつ仲間と共生しながら夢を実現することが可能な社会として誕生しました。オベルト・アイラウディ(ファルコ)によって提唱された道は、研究、実験、個人の潜在能力を全面的に表現すること、また独断的な姿勢を克服することを通じて、全ての人の内なるマスターを目覚めさせるものです。

1950年にイタリアのバランジェロで生まれたファルコは、哲学者、ヒーラー、作家、画家であり、そして常に研究、治療、芸術、新しい科学の応用に取り組みました。ダマヌール市民は、動物名や植物名でお互いを呼び合う「ゲームオブライフ」(人生のゲーム)に取り組みしており、オベルトもファルコ(動物名:ファ

ルコ=ハヤブサのイタリア語)の名前を使いました。

ダマヌールでの挨拶は コンテ Con te (英語では With you) 「私はあなたと一緒にいます」と言います。誠実で心のこもった挨拶のジェスチャーは、「あなたと私はもともとひとつであり、分身のあなたに挨拶します」という意味です。

なぜ、グループなのか？

ダマヌールの特徴である「利他主義、団結、互助、思いやりの精神に基づく社会」を実現するためには、なぜ個人ではなくグループでなくてはならないのでしょうか。

ダマヌールの、すべての社会構造や研究はグループという単位が基礎になっています。各自が人生の主人公としてその人らしさを表現しつつも、グループや集団の共通の夢をもち、共生しながらお互いの違

いを生かしながら、大きな夢を実現可能な社会のモデルとして誕生したのがダマヌールです。宇宙の多くの精神的進化を遂げた星々では、コミュニティ社会に基づく世界によって進化の実現を成功させているのです。精神的進化とは独断的な主観的価値観ではなく、より広い視野をもち、全体的な価値観に変化することで、究極の真理へと近づいていくことです。

「私」という個人を超えて「超個人」へ

ダマヌールはひとりひとりの中に究極の真理のカケラがもたらす“マスター”が存在していて、様々な知識、体験、変容を通じて、内在するマスターの意識を目覚めさせていくことをひとりひとりが目指しています。そのためには自分の内面を映し出す鏡の役割りとして、同じ目的を目指す仲間との深い関わりや意見交換や互助が不可欠です。また進化を各自が実現するためには、自分の限界を常に越えていく弛まない変容が不可欠です。それは自己中心的な視野を越え、ユーモアのセンスと楽観主義とあきらめないポジティブさで、仲間と共に利他主義に徹してこそ実現することなのです。なぜなら私たちは元々つながっていて、私を越えた超個人へと変容することは、24時間を通じてそのことに向かって実践を継続することが不可欠なのです。

現代では血縁関係という枠の中で愛情や思いやりを表現する価値観が一般的ですが、人間は元々大きな魂の一部であり、限局的なつながりだけでは十分ではない存在です。ひとりひとりが宇宙において唯一無二の存在であり、その人こそがもつ特性や個性は人類への贈り物なのです。それゆえ、お互いの価値を認め合い賞賛することが、人類全体の進化を推進することにつながるのです。お互いに違いを際立たせる受け皿は“家族”というのは、往々にして偏りがちですので、より大きな精神的目標を目指すグループとしては不十分です。生立ち、教育、価値観、体験が異なる個人が共通の目的によってグループになってこそ、違いという豊かさが発見でき、受容と理解に基づく絆の形成が実現するのです。



植物も社会性のある生き物

植物は人間以前に創造された生き物で人間より沢山の情報をもつ賢い存在です。1本だけ木が草原にあったとしても根を張り、草をつけていますので、実際には1本でなく、全体を守れる社会性のある生き物なのです。個人主義でなく集合体という意識で生きているのです。そして遠く離れた仲間ともコミュニケーションができます。人間はこのような木々から多くのことを学び同時に共存していく必要もあります。

ダマヌールのコミュニティは“神様としての人間”を各自が実現するための精神的な研究室であり、決して安息を求めるだけの住み家ではありません。それゆえ、常に学び、実践、実験を通じて新たな意義を発見していくための場です。共通の目的をもった民族として共に生きるための守られた空間、つまりコミュニティが必要となります。またダマヌールのコミュニティの特徴は「常に変わり続けること。」です。ファルコはいつも「Con te,あなたは刷新しましたか？」という挨拶で私たちを常に励ましてくれました。



ダマヌールの創業者 ファルコ・タラッサコ

約束の地は菰野だった



ダマヌール日本は第2のダマヌールのコミュニティ創設に向けての25年近い活動の結果、2022年1月に三重県の菰野町杉谷に一般社団法人Oroveljが購入した土地や建物を日本のコミュニティ活動の中心地とすることに決定しました。

聞きなれない地名かもしれませんが、菰野町は、鈴鹿山脈の麓に位置する自然豊かな環境に恵まれた場所にあります。菰野町の地場産品は、真菰（マコモ）とその加工品です。真菰はイネ科の多年生の植物で、茎が肥大化してその部分をマコモタケといい、食用になります。菰野町は、この真菰が原野に多く生えていたことからその名が付いたといわれています。また古代から神社仏閣、出雲大社ではしめ縄として、真菰で編んだ草枕は、宇佐八幡宮・神田明神などではご神体とされてきました。かつて日本では、全国至る所の河川、湖沼などの水辺に自生していました。また杉谷一体からは縄文遺跡の遺物も多く発掘されており、一部は文化財収蔵庫や図書館に保存されています。

三重県三重郡菰野町杉谷、リクルート保養地跡を地元の名士が買収、土地は1,330坪、建築物面積240坪、築50年の鉄筋家屋です。1階は共同スペースとしてのセミナールーム、2階は住居用個室となっていました。敷地内には水源もあり、水道の蛇口からの地下水は大変美味しく、お風呂も温泉以上の贅沢な水を確保できます。かつて建設当初は保養所として使用され、また週末は今では誰も訪れることなくなった左隣の三論宗尾高山法興寺を訪れる人々の宿泊者で賑わいを見せていたそうです。

周囲は釈迦ヶ岳直下の山麓、杉から檜へと植林された三重県の国定公園に囲まれています。その静かな公園の一角に、尾高観音の六角堂が明治時代に村人の願いによって再建されました。ここには現在でも、奈良時代に大安寺からの聖徳太子建造と言われる千手観音菩薩立像が安置されています。

伝説によると、持統天皇の時代686年頃、釈迦ヶ岳にやって来た役行者の小角が霊地として、国見岳（釈迦ヶ岳）の岩窟を草庵、修行の場としました。

689年9月20日、大和大安寺本尊千手観世菩薩が僧徒に対して、「北勢杉谷の峠釈迦ヶ岳は我が国由縁の霊地にて当今役である小角に其の地に安居す」と夢に告げたといえます。数十の寺僧一夜に同夢を感じ、さては仏勅背き難しということで9月20日、大安寺より釈迦ヶ岳の草庵に移りました。

790年頃、桓武天皇の時代に山険しく谷が深く参詣が困難なために、山の麓である現在の尾高観音に祀られるようになりました。

中世はこの尾高観音のある杉谷一体は仏教の大伽藍が建造された宗教都市となりました。その後、伊勢西国三十三ヶ所のうち、25番目の札所となりました。しかし堂塔は織田信長の兵火にあい滅亡しながらも、明治20（1887）に村人の熱心な働きにより慈眼寺の奥の院としてこの観音堂は守られてきました。

昭和の時代に入り、日本の神道界の大御所である大本教の教祖出口王仁三郎が裏神業の地として選んだのが菰野でした。その中心的メンバーとされるのが、菰野の「錦之宮」に土地を提供する辻天水、淡路島出身の数霊学者・武智時三郎、そして『日月神示』を降ろされ、至恩郷を建設した岡本天明の3名でした。



第2のダマヌールの地として菰野から第一歩が踏み出されました。ここはまさしくダマヌールの創始者であるファルコが当初から予定していた約束の地です。かつて輝かしい歴史のあった場所です。聖地はまた後の時代に聖地となっていく、これは世界中の聖地の習わしのようです。

1年経過した現在、メンバーによる補修作業などまだまだ途中段階ではありますが、第2のダマヌールを目指して着実に夢の実現に向かって進んでいます。螺旋も設置され、イタリアのダマヌールでの年に5回の儀式（春分、夏至、秋分、故人追悼の日、冬至）と並行して、この菰野町の杉谷の地にて既に儀式が執り行われました。そして新たに新築のダマヌールのヒーリングの部屋やゲストルーム等の建設が急ピッチに進められています。

4つの錬金術的要素に捧げられた祭壇～土の祭壇～



テリトリーの中には、火、水、土、空気の4つの錬金術的要素に捧げられた祭壇があります。今回は、この4つの祭壇のうち土の祭壇について紹介します。

土という要素に捧げられたこの祭壇は敷地の北の裏門の横に設置されています。祭壇の形はイタリアのダマヌールの土の祭壇の形を模してピラミッドの形をしており、レンガを積んで作られています。

土というと皆さんはどのようなイメージを思い浮かべるでしょうか。都会ではコンクリートで舗装された箇所が多く、もしかしたら中々土に触れる機会も少ないかもしれません。土は植物や作物、虫や微生物、菌を育み、林や森を作るまさに生命のゆりかごのような存在です。この土というのはどのように地球上に誕生したのでしょうか？地球

が誕生した時、土はまだありませんでした。地表の岩石が風や雨、雪などに打たれたり、気温が上下する時の膨張や収縮によって徐々にもろくなり風化していき、そこに微生物が取りついて腐食作用のある酸を放出したり、地衣類や苔類等の光合成を行う生物が登場して有機物を生成したりして侵食が加速していき土を作り始めます。そして、一生を終えた苔類や微生物が有機物となると大型の植物も増え始め土づくりもますます活発になります。このように、地表の岩石が気の遠くなるような長い年月をかけて徐々に土が作られていったのです。

土の要素は、有機物を貯蔵(保存)し、熟して変容させます。自然のすべての命の形は、その進化のために命のサイクルに沿って死を通過し、土に還り、そこから育まれた新たな命の形として、再誕生します。つまり、土という要素は、私達人間の魂が進化するために生まれ変わる肉体を育むために不可欠な滋養を提供してくれるのです。ですから、新たな命の進化になくってはならない要素です。テリトリーの土が健全で豊かな滋養を提供できるためには、その土地で土という要素につながった自然の精霊たちとの協働が不可欠です。ですから、この土の祭壇は、私たちが常に土という要素への敬意と感謝を表し、また、常に自然の精霊たちへの調和的な協働や共生を約束するコンタクトの場でもあるのです。テリトリーにいらした時には、ぜひ土の祭壇を見に来てください。

ダマヌールのクラシックセルフ



セルフとは…
詳しくはこちら



「人間関係のセルフ」

新年度に入り、新しい生活や、学校や職場などで新しい環境に入って行く人も多いのではないのでしょうか。今回は、新しい環境でスムーズなスタートを切るのにぴったりなセルフを紹介します。

このセルフは自己評価、自己受容を増大させ、他者との関係を容易に、そして円滑にします。初対面の時から心地よく接触できることを助けてくれるのです。新しい生活に不安のある方、職場や地域、学校などの新しい環境でより一層の円滑な人間関係を望む方にぜひおすすめです。

ブレスレットとして身に着けることで効果を発揮します。



薪ストーブ

テリトリーに薪ストーブができました。この冬はこの薪ストーブが活躍してテリトリーを暖めてくれました。太陽のエネルギーを豊富に含む薪を燃やして得るこのストーブは本当に暖かいです。芯から温まります。そして今、テリトリーにはたくさんの薪があります。今後のために備蓄をしているからです。手間暇かかる薪ストーブですが、今後もテリトリーを暖めてくれることを期待しています。



テリトリーの畑計画

自給自足の第一歩として、テリトリー建物北側の空き地に畑をつくる計画を立てました。しかしこれが一筋縄でいくものではありませんでした。整地作業を進めていると、瓦礫がでてきたり、石がでてきたり、畑に適する土地ではなかったのです。昨年度は、整地作業で終わってしまいました。



今年に入り、雪が解けてから精力的に整地作業を進めています。まず、斜面の段々畑を作りました。そこに春の草花を植えました。今年はなんとか、畑を作り作物をつくりたいと思っています。

「ダムヌール日本」の情報発信

ご登録お待ちしております！



ホームページ



インスタグラム



メールマガジン



公式ライン



フェイスブック



ニュースレターぼぼろ





「アストラトラベル」

5/ 20(土)21(日)
1日目 11:00-18:30 2日目 10:00-18:00
講師 フェニーチェ・フェルチェ
参加費 ¥40,000

「パーソナリティーのコース 第1レベル」

7/15(土)16(日)
1日目 11:00-18:30 2日目 10:00-18:00
講師 トリダクナ・バラドンナ(ダマヌールより来日)
参加費 ¥45,000

「パーソナリティーのコース 第2レベル」

7/29(土)30(日)
1日目 11:00-18:30 2日目 10:00-18:00
講師 トリダクナ・バラドンナ(ダマヌールより来日)
参加費 ¥45,000 対象:第1レベル修了者

「ダマヌールのペンデュラム(ダウジング)」

8/26(土)27(日)
1日目 11:00-18:30 2日目 10:00-18:00
参加費 ¥40,000
講師 フェニーチェ・フェルチェ
※ダマヌールのペンデュラム(セルフ)を希望される方は
購入できます。(¥6,000)

「セミテンポラーレ第2レベル」

望むことを学ぶ。未来に向かって記憶を植え付ける
9/16(土)17(日)
1日目 11:00-18:30 2日目 10:00-18:00
参加費 ¥45,000 対象:第1レベル修了者
講師 アンティロペ・ヴェルベナ(ダマヌールより来日)

「過去生のリサーチ 第5レベル」

9/18(月・祝)19(火) 両日 10:00-18:00(予定)
参加費 ¥75,000
講師 アンティロペ・ヴェルベナ/フェニーチェ・フェル
チェ/ジュゴン・クスノキ

「過去生のリサーチ」

11/18(土)19(日) 両日 10:00-18:00(予定)
参加費 ¥70,000
講師 フェニーチェ・フェルチェ /ジュゴン・クスノキ

会場:オロヴェリイ セミナールーム

(三重県三重郡菟野町杉谷)
近鉄湯の山線「菟野駅」または「湯の山温泉駅」からタク
シーで15分/お車の場合は新名神「菟野」から約14分

<お申込み・お問合せ>

●ダマヌール日本神戸センター
Mail:damanhur-kobe@s5.dion.ne.jp
T/F 0798-23-9161
●ダマヌール日本支援ネットワーク・イピアル
M:jpjal@crux.ocn.ne.jp
T/F 052-683-8233

講師プロフィール



フェニーチェ・フェルチェ
(Fenice Felce)

ナチュラルセラピー・ホリスティック健康科学博士。ダマヌール創立メンバーの一人。スピリチュアルヒーラー。スピリチュアル物理学・ダウジング・インナーハーモニゼーション・セルフ学的催眠療法・アストラトラベルのスペシャリスト、古代エジプト哲学とミステリーの研究者として国際的に活躍しています。その豊かな研究体験と深い理解と幅広い知識にあふれた講演は常に多くの参加者を魅了してやみません。



アンティロペ・ヴェルベナ
(Antilope Verbena)

ナチュラルセラピー・ホリスティック健康科学博士。ダマヌールのスピリチュアルヒーラー。20年以上に渡り、ダマヌールのスピリチュアルヒーラーの学校の運営指導に関わる。セルフ学の研究によって実現したセルフ的なキャビンを使ったヒーリングやセルフ的なペンデュラムの専門家であり、健康問題の解決に向けた的確なアドバイスには定評があります。また、時に関する研究者で、タイムトラベルやスペーストラベルの実験を行っていた時期は、自ら信じがたい体験も持つ。



ジュゴン・クスノキ
(Dugongo Kusunoki)

ナチュラルセラピー・ホリスティック健康科学博士。スピリチュアルヒーラー。2003年よりダマヌールの在住市民。ダマヌールのメディテーションの学校、インナーハーモニゼーション、アストラトラベルの公認インストラクター。ダマヌールでの体験、豊富な知識、ダマヌールの思想・哲学への深い理解からなされる通訳は高く評価されています。著書に「ダマヌール 未来への光」



トリダクナ・バラドンナ
(Tridacna Belladonna)

心理学者、心理療法士。スピリチュアルヒーラー。30年以上にわたり幅広いヒーリングメソッドを実践。精神医学分野での経験も豊富で、ユング心理学の心理ドラマ、非言語コミュニケーション、音楽劇、音楽・芸術療法、ペットセラピー等、内面成長の教師としてイタリアのみならず、ドイツ、ノルウェーなど、世界中で教鞭をとっている。1989年よりダマヌールに住み、ダマヌールの考え方に基づくヒーリング治療の専門家で、セルフを使用した痛みの治療と身体不調緩和の個人セッションも行う。ダマヌールのスピリチュアルヒーラーの学校の主要講師。